



NHKラジオ 「ラジオ深夜便・深夜便かがく部」 2020年10月12日（月曜日）午後11:05放送

「除菌のプロとして、前向きにウイルスと向き合う」と題して、今夜は栃木県大田原市で清掃業務に従事する「日本特殊清掃隊 理事・江連英雄さん」のお話です。
今年3月、江連さんは清掃のプロとしての技術を活かし「新型コロナウイルス」の集団感染が発生したクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」の除菌作業にあたりました。
現在は「正しい除菌方法などを広める活動」を行っています。長年ウイルスと向き合ってきた江連さんにその想いを伺いました。聞き手はラジオ深夜便の高村真耶ディレクターです。

NHK 高村ディレクター（以降NHK）
江連さん、よろしくお願いします。

EZURIN代表 江連（以降EZURIN）
よろしくお願いします。

NHK
NHKにお越しいただいて、スタジオに入られてから除菌に関しては気を使ってらっしゃる様子も見えました。手の消毒はもちろんなんですけど、先ほど喉にもシュシュとされてましたよね？

EZURIN
そうですね、喉は大事だと思います。人間の体って常在菌っていうものがあるんです。消毒っていうものをやりすぎることはよくないのですが、一日三回ぐらいと決めておいて、シュシュとやるような感じです。

NHK
何？

EZURIN
「ポピドンヨウド」という、大阪の府知事がちょっと言ってたんですけども、あれっていうのは効くと、僕たちも前から思っていたんです。世の中から無くなってしまい、ちょっと困ってしまったのですが最近手に入るの...

NHK
そういったあらゆる「菌」に、日頃から気をつけていらっしゃるということですよね、それはやはり、お仕事と関係してらっしゃると思うんですけども、江連さんがこれまでお仕事として携わっていらしゃったのが、「遺品整理」が主な業務ということなんですけど、具体的にはどういったことをされるのですか？

EZURIN
ご家庭で亡くなった後の片付けとか、そういうものが非常に増えてきて、「一般廃棄物許可証」っていう市の許可を頂いて、家の中のものを全て片付けなきゃならないところで、やはりゴミ屋さんっていう形ではなく、「整理」という形で、亡くなられた個人様の「思い」っていうのもしっかりと受け止めながら片付けるいう作業を行っております。
その中にはやはり「孤独死」みたいな形で、亡くられる方がいらっしゃって、亡くなってから結構な日にちが経っていると、やっぱり「ウイルスとの戦い」になってくるんですよね。
お部屋に入る上で、強烈な臭いが漂っているんです。そこで私たちが、常々そういう「匂い」とか「ウイルス」という見えないものとの戦いっていうのを常々やっていたことから今回の「新型コロナ」っていうものに対しての「ウイルス対策」に結びついていったところですね。

NHK
今、やはり「除菌」っていうものに一般の我々もかなり敏感にはなっているのですが、元々、江連さん達「日本特殊清掃隊」という団体も皆さんは、かなり意識をして日頃のお仕事をされてた訳ですか？

EZURIN
そうですね、そのための道具と言うか、必要な物は大半取り揃えておりました。
このコロナっていうものが流行り出した時に、全て自分の持っているもので対応できるんじゃないか？ってところで始まりまして。
それで、今まで僕たちの中からは一人も「感染者」を出すことなく作業に取り組んでおります。

NHK
「ウイルス」や「菌」の近いところでお仕事をしていても？

EZURIN
そうですね、リスクはかなり高いと思います。
皆さんが自粛してるっていう中、逆に忙しく出て行ったって逆のことをしていたわけですから、「僕たちが広げたら大変だ」っていうこともありますし、もちろん、「自分たちがなったら大変だ」っていうところも全部踏まえて考えてやりました。

NHK
「新型コロナウイルス」って、形を変えてそばにいるものだと思うんですが、ウイルスの対策っていうのも常に変わってきているんですか？

EZURIN
そうですね、変わってきてます。
何が効くんだっていうものを常々勉強しているっていう事になります。
やはり、同業者同士が敵対心を持っているのではなく、私たちの場合は、同業者同士が情報交換もかなり多いんですよ。
「これがいいよ」っていうものはとりあえずやってる、学術的にエビデンスがどうのっていうのを待っていると間に合わないんですよ。実際、目の前で作業をするっていうと、「エビデンス」は確かに大事かもしれないのですが、直面している僕たちには、もうそういうものは省いてやって行かなきゃならないので、良いと思われるものはどんどん使ってます。

NHK
常に日々アップデートされているんですね？

EZURIN
そうですね、新しいものがドンドン出てくるのですが、基本的に「ウイルスって何なの？」っていうのを理解すると「タンパク質で覆われているんだ」と、そこを「化学薬品で不活性化するんだ」っていう風な考えを持っているっていうことですかね。
そうことを色々考えていくと、もう頭が痛くなるんですけども理解すればそんなに怖いんですけど、「怖くはないかな」って、「付き合えばいけるんじゃないのかな」っていうところは思いますね。

NHK
そしてこれまで長年除菌のプロとして、いろいろな経験や知識を貯めていらしゃった江連さんが今年、残念ながら集団感染が発生してしまったというのがクルーズ船、まず、我々にとって衝撃だったんですけども、そのクルーズ船への清掃の依頼があったということなんですけど、行くまでの、その経緯みたいなものっていうのはどういったものだったんですか？





EZURIN

それもやはりその同業者同士のネットワークって言うか、「家財整理」とか「遺品整理」をやっている人たちのある1社から始まったのですが、そこからそこに対応できるもの、誰も知らないことに直面する訳ですから怖いですよってところなんですけども。しかしその反対で、誰かがやらなければならないっていう気持ちの元にやっているんですね、その孤独死の作業っていうのも「誰かがやらなきゃならない」、見た目もすごく悪いし、綺麗な仕事ではないっていうところから始まっていて、そういう思いから、必ず誰かがやらなきゃならないっていうところで、そういう気持ちは常々思っていたんですよ。今回のコロナっていうのも全くわからないものだし、僕たちがこう出て行くところでもないのかな？と思ったのですが、ご依頼が来たからには、行こうっていう様に即決だったので、即決で「行こう！」っていう風になったんです。

NHK

「やめようかな？」っとかはなく？

EZURIN

まったく思いません。「よし、行くぞ！」っていう感じなんです、一応自分たちで何を用意したらいいのというものを取りあえずはあの車に乗せました。現地に着いてからは、一番最初にやったことっていうのがレクチャーだったんですよ、船の会社の方とかWhoとか厚生労働省が関わっているものですから、「その中に入るにはこうしてください」みたいなレクチャーを受けたのですが、2~3時間やったかな？やった上で、忠実にそれを守ってやっていこうということで、中に入ったら本当に怖いので、言われたことはしっかりと受け止めてやっていこうと....

NHK

いざ船の中に入って、その時の様子というのはいかがだったんですか？

EZURIN

異様ですよ、すごく異様です。冷房とかも効いてませんし、かろうじて電気はついて電気は通ってたのですが、その中で使う道具とかそういうのも、はっきり言ってすごい道具とかもあったんですよ。一般的に使われるものではあるんですけども、使い方が半端じゃないって言うか、除菌剤ですけども、今この国で使われているアルコールは使用禁止ですね、まったく使ってないっていう状況だったんです。

NHK

そうなんですか？

EZURIN

アルコールっていうのは引火性が強いじゃないですか、もしかかっていう時、船なので火災だけは本当に怖いということでアルコールの使用はしていません。「次亜塩素ナトリウム」っていうのは今、頻繁に使われてますがそれをも使っていない、実際その時に何を使っているのかが、自分達も分からなかったんですよ。

NHK

そうなんです？

EZURIN

一つのを渡されて、それをバケツに入れてそれで全部拭き取るっていうやり方をしたんです、ですから相当の手間でしたよ。拭き付けて拭き取るんじゃなくて、その薬剤に漬け込んだ使い捨て布巾って言うんですかね、そういうウエスを、それで全部テーブルから椅子からもう壁から全部です。そこに置いてある物体という物体は全部、絨毯に関してはそれを噴霧っていうよりは、濡らす形で液体を吸い取る掃除機で吸い取っていくっていう。その薬剤っていうのが「加速化過酸化水素」ってわかったのは作業が終わってからなんですけども、それを調べてみたら日本になかったのかな？、外国製だったんですよ。

NHK

そうなんです、加速化過酸化水素？

EZURIN

今は日本でも売られてます。当社でも扱うようにはしたんですけども、そんな形でその「加速化過酸化水素」っていうもので拭き取る。要は、もうそこに一緒にウイルスもとってきちゃう、ウエスを使ったいうのも、使い捨てなんですけども、必ず使って汚れて言うか何回か使ったら、処分っていう形でそこはもう使い捨てにするしかなかったんですよ。

NHK

そうした作業をひたすら続けたわけですか？

EZURIN

そうです、もう椅子の足の裏まで全部です。とにかく目に見えるものは、全部やっていったっていうところですね。その船の椅子とかって結構な重量があるんですよ。やはり船が揺れる、多少なりとも揺れるんで、そういう軽いものはあまりなくて、テーブルとかは、もう固定されてたりしますし、椅子なんかも鎖が付いて、それは外してはいたんですけども。かなりの重量があったとかいうものを全部運び出し、一定のところに寄せて、全部拭いていったっていうところですね。

NHK

相当広いですよ？

EZURIN

広いんですよ、なので相当の人数も必要でしたよね。リーダーっていう人が必ずその部屋にはいるんですけども、全て外国人なんですよ。その外国人の方の指示に従って僕たちは動くことになったんですけども、1ブロックに対して僕たちが6~7人入ったのかな？外国人のリーダーが一人で言うと、意思疎通がすごく難しいっていうところで、僕たちが入った中の例えば僕がその外国人の方とお話を何とかして、理解して「こうやってくれ」、「この人はここを」、「この人はココ」っていう風なあらすじを立ててから作業に入っていて「ここをこうやるんだよ」っていう風なニュアンスでやっていたんですけども。

NHK

それを6日間行ってらっしゃったということなんですけども、もちろん作業は、かなり重労働だったと思うんですけども、お休みされたりっていうのは6日間どんな風にされてたんですか？

EZURIN Report



EZURIN

横浜市内の某ホテルにびったり時間にはピタッと、ただ24時間体制で3交代だったと思いますね。

NHK

そうなんですね？



EZURIN

僕たちは、たまたま屋間だけっていう形だったんですけども。

NHK

疲れましたよね？

EZURIN

いや～、でもいい勉強になりましたよ、本当に勉強になりました。

NHK

そこですか…。

6日間作業を終わられて、いよいよ終わって下船するっていう時はホッとした部分であったりとか、どんなお気持ちでしたか？

EZURIN

ホッとした気持ちっていうのもありますし、あのクルーズ会社の方が粋な計らいで、クルーズ船のその寝室の部屋の明かりで「ありがとう JAPAN」っていう文字を作ってくれて出航して言ったんですよ。

夜だったんで見ることはできなかったんですけども、写真で後から見て、一人か二人たまたま見たらしいんですよ、

「すごいすごい」て、写真を送ってくれて今も残ってますけど、それがね、ちょっとね、鳥肌もんですよ、感動しました。

NHK

勉強になった、経験になったという風におっしゃってましたけれども、終わった後というのはまた、その後スムーズにお仕事に戻られたんですか？

EZURIN

そうなんですよ。

帰ってからほんと家族もちょっと心配だったと思うんですけども、「大丈夫だろう」っていうところでやっていくしかない、

「なったらなった時に考えよう」、みたいな考えはあったんですけども、それしかなかったんですけどね。

でもそれなりの防御はしてたし、色々勉強させてもらったので、着てるものから全部処分して、新たな格好で帰ってきてる訳ですから、まあ大丈夫だろうと。

NHK

そうですね、

関係者の方で感染者は出ていないということで、クルーズ船でもそれが証明されたということですよ。

その緊迫したお仕事の後に、色々なところで広める活動をしていらっしゃるということなんですよ？

それはやっぱり何でしょう、得たものをみんなに伝えたいって思いからなんですか？

EZURIN

はい。

本来であれば、せっかく得た知識であるわけですから、自分の商売に結びつけて、会社も飛躍できるとか考えたりもしましたが、「これってもう国難だよな！」と…。国全体っていうか世界全体が、みんなこんなに大変な思いしているのに、そんなこと言てられないなと思って。僕の知ってる知識をどうにか皆さんに伝えて、皆さん自身で除菌に対する意識を高めてもらえればなと思って、そういう講演なんかをするようになったんですね。

で、私は栃木県な訳ですから、「観光立県」って言っても過言ではないくらい、観光で成り立っている部分が多いということで、一番真っ先に思いついたのが「温泉街」とか「温泉地の旅館・ホテルさん」に対して、これを機に、もし聞いて頂けるならっていうところで、地元的那須塩原市役所の観光課の方とちょっとお話しして、そこで始まったのがきっかけだったんですよ。そこで旅館組合の方達に集まってもらえるような形にしてもらって、そこで「こんな風にやるんですよ」っていうのを、お伝えしたというところですよ。

NHK

その後、「GoTOキャンペーン」なども始まって受け入れる側も、そしてもちろん行く側も、何で行きたいけど受け入れたいけど、ちょっとヒヤヒヤしてるっていうのが正直なところだと思うんですね。そういった現場の声も…。どうですか？、きちんとした対応を聞くと変わりますか？

EZURIN

要するに、「安心」っていうもの変わるためには、両方が安心しなければならないじゃないですか、その安心というもの、今の時代に何？って言ったら「ちゃんとした除菌の仕方」みたいなことを心得ているって言う事であれば「じゃ、それをそのまま僕たちがそのダイヤモンドプリンセス号でやってきたことをまま教える」って言う事によって、あれだけ騒ぎの大きかった船を除菌してきたわけですから、自分たちのホテル、自分たちの旅館にもこのまま応用していただければいいんじゃないかと、どこまで行っても目に見えないものなんですけども、やってるか、やってないかっていう差は大きく変わると思うんですよ。

テーブルを拭くっていうのは、誰もがもちろんやっていることなんですけども、テーブルの下とかテーブルの脚まで拭け、何て言うのはちょっとした事なんですけど。

「そこまでやるんだ」っていうことをやって、やったからこそ安心できるって言う、「その受け入れ態勢もちゃんとしてますよ」っていう風に大きな声で言えるんじゃないのかなって思います。

NHK

具体的なアドバイスとしていくつか教えていただいてもよろしいでしょうか？

EZURIN

まず、噴霧はしない。

NHK

ちょうど手元に、このスタジオを除菌するためのスプレーがあるのですが、こういうスプレータイプも直接は吹きかけない？

EZURIN

直接吹きかけるのではなく、布中に吹きかけて布巾を濡らして、その濡れた布巾で拭き取るっていう方法を実践していただきたいですね。



NHK

こちらに使い捨てのクロスがあるのでここに？

EZURIN

そうです。

バケツに液体を入れて、そのバケツに浸しながらやっていくっていう、ヒタヒタな感じなんです。その薬剤っていうのは決して手にはよくないんですよ、そのために手袋をしてください。

NHK

手袋をきちんとしてから薬剤をヒタヒタにする。

EZURIN

アルコールでウィルスが不活性化するのが2分と言われてんですよね。アルコールに浸して2分から5分。シュシュって噴霧、その場で不活性化するかって言うとしないんですよ。

けど、それをずっとやってると手がカサカサになりますよね。それが正解なんです。要するにさっきも言いましたけどウィルスってタンパク質に覆われていたとしたら、そのタンパク質が油分っていう風な、手の潤いをもたらしてくれている油分だとして、それをアルコールで不活性化させる訳だから、ガサガサになって当たり前なんですよ。って、いう風に考えると、そういうことかってだんだんになってくるんですよ。

だから一番いいのは石鹸で手を洗うことが一番いいんですよ。

とてもシンプルなんですけども、界面活性剤っていうのは、やはりその殺菌効果あります。手を洗うっていうのは単純に、一番簡単で一番効きますよね。

NHK

そうですか

とてもシンプルな意見が...

EZURIN

あの本当によく言われてることなんですけど、「手洗い・うがい」そのまんまなんです。一番良いのは石鹸で手洗い。

NHK

では、自分自身で守るためには、石鹸で手洗い、そしてうがい、居住スペースをきれいにする場合には、吹き付けるのではなく、吹き付けたもので拭く。拭き方というのはどんな風に？

EZURIN

ならず一方方向です。

往復させると、とってつけて、とってつけてみたいな形にイメージとしてなってしまうんですよ。クルーズ船では必ず一方方向、「上から下へ上から下みたいなやり方でやってください」と、その布巾で、ウィルスを取って剥ぎ取ってくるっていうイメージですよ。

布巾をひっくり返して、また綺麗な面で作る。汚れたら処分するというふうなやり方。なので、雑巾とかを揉み出して使い回しているの一切やらなかったんです。

結局、汚れがついちゃったものっていうのは、その汚れがウィルスなのか汚れなのかはよくわからないけど、着いちゃうものは着いちゃうんだから、それじゃ意味がなくなっちゃうっていう所で、それはもう処分そうですね。

NHK

徹底して除菌をするとすると、それくらい意識をしないといけないですね。



EZURIN

意識しすぎると、自分がおかしくなるんですけども、でもある程度の意識はしていこうという風な形ですよ。

先日、お盆に「戦没者慰霊式」の除菌も参加させていただいたんですけども、そこで気付いたのは、高齢者の方がたくさんいらっしゃいます。どこを歩くにも壁とか手すりを必ず触って歩くんですよ。そうすると、その手すりなんかは本当に気をつけてないと次から次へと色んな人が触って行くんですよ。なので、そこに常駐している人たちがその場だったんでウェットティッシュみたいなも必ず持ち歩いて拭き取るっていう形をとってました。

NHK

お子さんなのか、成人なのか、そしてご高齢の方なのか年齢によって、生活空間のその行動の仕方も変わってくる訳ですね？

確かに今聞いたことを全て実行しようと思うとなかなか生活大変だなと思うんですが、改めてウイルスとどんなふうに向き合ったらいいでしょうね？

EZURIN

怖いんですけど、あまり考えすぎると違うほうで自分がやられてしまう可能性があるんで、上手に「with コロナ」っていう形で上手に付き合っていくしかない、その中でできることはやる、そのやり方が分からなければお問い合わせくださいっていう感じですよ。

いろんな本も出てますし、こうやってメディアを使って「こうやったらいいんじゃないか」っていうのを参考にさせていただいて、少しでもその生活の中で「必要なところは必ずやっていく」っていうところですね。

過剰な意識は必要ないと思うんですけども、半年前の生活からちょっと変わって、除菌っていうものについてきたっていうところですね。

NHK

江連さんご自身としては、今後も「新型コロナウイルス」だけではなく、いろいろなウイルスと対峙しながらお仕事をされていくと思うんですが、どんな風にお仕事を続けていきたいなと思いますか？

EZURIN

今まで通りのことをやっては行くんですけども、重く考えないようにしていかないとね、今お話しして思ったんですけど、年がたって今47歳ですけども、もうちょっと歳がたって仕事が一段落するようなことがあったら、奥さんと一緒に「ダイヤモンドプリンセス号」に乗りたいなってふと思ったんです。それだけ自分がしっかりやってきたっていう思いもありますし、だから大丈夫なんだよっていうのも自分で証明したいなっていうのもありますね。

NHK

そうですか、そう聞いて笑顔の江連さんを見たら、この「with コロナの時代」も、今頑張ってる気をつけていけばまた、明るいものが待ってるのかなという気がしました。今日は貴重なお話を頂きましたありがとうございます。

EZURIN

ありがとうございます。

今夜のインタビューは「日本特殊清掃隊理事の江連英雄さん」のお話でした。